

怒れ！ 歯科界

たかはしひでと
高橋英登

井荻歯科医院
〒167-0023 東京都杉並区上井草1-31-3

◆ 前代未聞の発言

「今の歯医者さんは（窓口負担金の）3割を取らなくても、（支払い側からの）7割で儲かるという仕組みを作ったわけですよ。ということは、定められた治療費が実は3割高いんだと。」

そういうシステムがないところで払っていても3割高い。そこに、主な問題があるのではないですかね」

これは、1月23日夕方に放映された全国ネットの報道番組(FNNスーパーニュース)での木村太郎氏の発言である（括弧内は筆者による）。すでにご存知の先生も多いと思われるが、事の発端は、北海道のある歯科医院で患者さんの窓口負担金を実質ゼロになるというシステムが行われていたことに対して、厚生労働省側の指導が行われたことに関する報道である（いわゆる0円歯科問題）。

それによると、患者さんは治療

後、医院の受付で窓口負担分の請求書を受け取り、隣接するNPO法人の窓口にてその請求書を提示し、NPO法人のアンケートに答えることでその労務料として請求書の金額が患者さんに支払われ、それを再び歯科医院の受付で支払うものであるという（患者さんは事前にNPO法人へ会員登録する必要がある、その条件は健康保険証を持ち、年収が520万円以下の人）。実質、患者さんの窓口負担は無料になる。

一見すると、“集患を目的として治療費のうち窓口負担分をダンピングしているのでは？”と思われる節もあるが、このシステムの流れを個別に解釈すると違法性は薄いとされているようだ。とはいえ、厚生労働省側も動きだし、舐添厚労相も疑念がある旨のコメントをしていることから、当局側の適正な対応が待たれるところである。

それでは、上記の発言は何なのか。この件に関する報道の最後に、

女性キャスターが「（治療費が安く済むことで）助かっている」という弱者救済としての0円歯科を絶賛する患者さんの声にふれながら、木村氏にコメントを求めて発言されたものである。すなわち「診療報酬の窓口負担金（3割負担）は歯科医師の不当利潤であり、支払い側からの7割で“十分儲かる”仕組みをわれわれ歯科医師が作った」というのである。本コラムをお読みの先生方は、この発言をどう思われるであろう？

はっきり言って、健康保険法を知らない言葉の暴力である。このことが視聴者（国民）に事実として受け取られてしまうことに、私は恐怖を感じている。

一度、公共の電波に乗った発言は元に戻らない。“自分で得た正しい情報に基づき、自らの責任を持って発言する。そして、その発言には重い責任を持つ”というジャーナリストとしての基本があるからこそ、全国ネットの報道番組

歯科医師 質の向上
ワーキングプア 医師不足 モンスター・デンティスト
歯学部 定員割れ 有識者会議提言
歯科医師過剰 浪費される健保料
合格率低い大学 定員削減 専門外治療 年収300万円

■図 日歯に求められる対応とは？ そして、われわれは何をすべきか？

でコメントできるのではないかな？
このことは長年にわたって報道に携わっている氏であれば十分認識しているはずであり、まさに前代未聞の暴挙としか言いようがない。まずは木村氏に猛省を促したい。氏は公的メディアを通し、国民の命と健康を守るため、孤軍奮闘している歯科医師に対し即刻謝罪すべきであろう。

このような国民を欺く全くデタラメな報道によって、自己犠牲を払いながら世界に冠たる低診療報酬の公的保険制度を支えている歯科医療関係者に対し、さらなるイメージダウンやモチベーションの低下、患者さんとの信頼関係を傷つける要因となることが強く懸念される。受付で患者さんから「3割ボロ儲けしているのか！」などと言われたとき、われわれはどう対応すればよいのか声を失う。

私はこの発言に対して震えんばかりの強い怒りを感じ、入手した情報を一会員からの声として日歯に対してすぐ送信した。しかし、この原稿を執筆している現時点において、日歯の動きはみえてこない……。

◆ ネガティブキャンペーンの行く末

近年、われわれ歯科界に対する

マスコミのネガティブキャンペーンには、目に余るものがある。一部には、“あまりにも風評に躍らされているのでは？”と思われるものもある。今では「ワーキングプア」が歯科医師の修飾語になっている。たしかに、歯科医療現場の現状を広く知ってもらうことは大切だし、患者さんの深い理解に結びついている内容もごく一部にはみられるものの、明らかに恣意的なものが感じられる報道が多い。われわれはこれを看過してよいのだろうか。これでは、歯科医師はインチキな報酬を得ているなどと喧伝され、国民の間に倫理的に問題のある職業として浸透してしまえば、業界全体のイメージダウンであり、これからの歯科界を担う若人にとっても大きなマイナスとなろう。しかも「医師不足、歯科医過剰」が様々な場面でいわれていることから、国の施策にまで影響を与えるのではないだろうか。

これら歯科界に対する不当な誤った報道に対し、われわれはあまりにも反応が乏しすぎて、“負け犬のように逃げている”と思われるのではないだろうか。それとも“誰かがどうにかしてくれる”などと甘い期待をし、組織に丸投げしてはいないだろうか。われわれ

は、怒りを持って個人で立ち向かう気力を失っているのではないかな。私自身を含めて反省する点は多い。だからこそ、あえて発言したい。「上を頼っている、事は進まない」と。

◆ 日歯の未来は会員の力で

われわれは、国民にとってなくてはならない“命と健康を守る”という大切な職責を担っている。それは、“社会に対して貢献している職業である”という自覚を強く持たなければならない立場にいるということでもある。自らの職業に自信を持ち、歯科界を取り巻く難関に立ち向かう必要がある。

私が学生であった40年前、怒りをあらわにした集団が国会を取り囲んでいた。しかし、物質的に豊かになった今、怒ることをやめた日本人はまるで飼い犬のように従順だ。現状を容認し、お上の言うがままである。

われわれの所属する組織、そして歯科界はどうであろうか。患者のために最善かつ最良の医療が提供できる環境にあるのか。官による歯科医師の裁量権を脅かす不当な弾圧はないのか。医療現場の実態を知らない、そして知ろうともしないジャーナリストの低俗な誹謗中傷に反論することなく、看過しているのではないかな。

怒ることを忘れた人々の集団は、衰退の一途をたどるのである。